

**製品名: リプリン  $\beta$ 1 ウサギポリクローナル抗体****カタログ番号: APRab13329**

研究使用のみ

**概要**

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,IHC
反応性	ヒト、マウス
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、 $-20^{\circ}\text{C}$ で保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

**応用**

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,IHC 1:50-1:300
分子量	115kDa

**抗原情報**

遺伝子名	PPFIBP1
別名	PPFIBP1; KIAA1230; Liprin-beta-1; Protein tyrosine phosphatase receptor type f polypeptide-interacting protein-binding protein 1; PTPRF-interacting protein-binding protein 1; hSGT2
遺伝子 ID	8496.0
SwissProt ID	Q86W92
免疫原	抗血清はヒト LIPB1 由来の合成ペプチドに対して作製された。アミノ酸範囲: 300-349

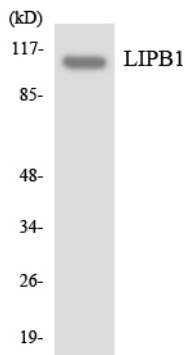
**背景**

この遺伝子によってコードされるタンパク質は、LAR タンパク質-チロシンホスファターゼ相互作用タンパク質（リプリン）ファミ

リーのメンバーです。リプリンは、軸索誘導と乳腺の発達に重要であることが知られている膜貫通型タンパク質チロシンホスファターゼのLARファミリーのメンバーと相互作用します。リプリンは複雑な構造を形成し、LARファミリーのチロシンホスファターゼのリクルートとアンカーのための足場として機能する多価タンパク質であると提唱されています。このタンパク質は、腫瘍の浸潤性と転移に関連するカルシウム結合タンパク質である S100A4 と相互作用することがわかりました。in vitro 実験では、この相互作用により、タンパク質キナーゼ C およびタンパク質キナーゼ CK2 によるこのタンパク質のリン酸化が阻害されることが実証されました。異なるアイソフォームをコードする選択的スプライシング転写バリエーションが報告されています。 [RefSeq 提供、2008 年 7 月], ドメイン: N 末端コイルドコイル領域は、ホモ二量体形成および  $\beta/\beta$  型ヘテロ二量体形成を優先的に媒介する。C 末端の非コイルドコイル領域は、 $\beta/\alpha$  型ヘテロ二量体形成および S100A4 との相互作用を媒介する。機能: 接着斑の分解を制御する可能性がある。受容体型チロシンホスファターゼ 2A 型には結合しない。類似性: リプリンファミリーに属する。リプリン  $\beta$  サブファミリー。類似性: 3 つの SAM (無菌  $\alpha$  モチーフ) ドメインを含む。サブユニット: ホモ二量体およびヘテロ二量体を形成する。カルシウム依存的に S100A4 と相互作用する。組織特異性: 広く発現している。肝臓には存在しない。

## 研究分野

## 画像データ



LIPB1 抗体を使用した COLO205 細胞の溶解物のウェスタンブロット分析。



1: 2000 希釈の Liprin  $\beta$ 1 ポリクローナル抗体を用いた様々な細胞のウェスタンブロット解析